

5/30 – Lecture 5.

「都市開発における植物コレクションの影響力」

講師：ロール・ギュメット氏

ナント市 公園庭園部 近郊担当部長

ナントの最初の公園、Jardin des Apothicaires（薬草園）は、ルイ 14 世により 1688 年に作られた。ほどなくして、ナントはフランスの重要な貿易港になっていったことから、世界中から数えきれない植物が上陸することとなった。たとえば最初のタイサンボク（モクレン科常緑高木）が輸入されヨーロッパに紹介されたのはここナントで、1711 年のことだった。ナントは又、ツバキが 1806 年に初めて種子から育てられた場所としても知られている。2～3 世紀がたって今日、ナントは 100 の公園（パークやスクエア）を有す、植物コレクションの宝庫となっている。

1971 年以来、ナント市はフランス園芸コンペティション Villes et Villages Fleuris をリードする市のひとつであり続けている。また、2013 年には European Green Capital にも選ばれた。1971 年に作られた Parc floral de Beaujoire は、ナントの園芸の伝統において特別な存在である。そこにはマグノリア（モクレン属、モクレン、コブシ、タイサンボクを含む）のナショナルコレクションがあり、また、バラ園も 1988 年に作られた。このバラ園は育種家や生産者、ガーデナーがバラを育成するために貢献し、その栽培ノウハウを紹介していることで有名である。

庭園は本来、その芸術的美しさや理想を熟考するという見地から評価されてきている。1970 年代に於いては急速に進む都市化の流れの中で、公園（または、いわゆる『緑地』）は装飾品として作られることが多かった。現在は都市はさらに密集し、居住者は装飾品以上のものを求めている。庭園は健康、交流、そして生活の場であり、自宅の延長線上にある存在となってきている。公園に来る人の数は、そこで行われる行事の増加とともに、確実に増えている。

最近の 2、3 年では観光客の増加に伴い、公園や庭園はナントの魅力を代表するものとなっていることから、その発展に大きく貢献している。来訪者は、The International Perfumed Rose Biennial のようなショウやイベントを通じて、幸福と自然、そして文化を結びつけ、ここにしかない植物の遺産を強調する並外れた作品（公園や庭園）をたくさん発見することができる。